

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000454		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「赤とんぼ」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥405-1		
自己評価作成日	平成30年6月25日	評価結果市町村受理日	平成30年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JieyosyoCd=2171000454-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白鳥町の中心部に近い住宅街という環境の中で、地域の方との交流を深めながらその地域の一員としての意識をもっていただき、また日々の生活の中で生きがいを持ってもらい、楽しく、心安らかに過ごしていただける空間を提供していけるように取り組んでいる。
医療法人社団 福寿会としてグループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護、さらに居宅支援事業所と、各それぞれ施設と連携を取りながら利用者の方、ご家族の方の個々の思いに適した総合的なサービスを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、白鳥町の中心部にあり、商店街や公共施設も隣在している。利用者が若い時に徹夜で踊った「白鳥踊り」の垂れ幕が時を告げている。利用者は、馴染みのある地域の中で、生き生きと、楽しく、心安らかに過ごしている。運営母体の病院を核に、複数の高齢者福祉施設があり、相互に日常的な交流を行っている。また、医療と介護の密接な連携があり、利用者や家族からは、大きな信頼を得ている。管理者、職員は、利用者の思いに寄り添いながら、専門性を磨き、働きがいのある定着率の高い職場環境を共に築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開放的であり、地域との交流や協力を努めまた地域の方にも認識をもっている。職員は理念を共有し笑顔で安全に楽しく生活していただくよう努めている	理念の意義は、管理者と職員全員で共有し、利用者支援に反映させている。そして、利用者が自分らしく、笑顔で楽しい生活が送れるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	白鳥踊りの会場として駐車場の提供をしている。また、春祭り、秋祭り、園児の交流の場所にもなっている。また、中、高校生の介護体験の受入れも行っている	自治会長からは、運営の理解と協力が得られている。地域の園児や学生たちの介護体験を受け入れ、広い前庭は、地域のイベント会場になっている。母体医院と共に、地域に密着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談等されたり聞かれたりしたら、説明をして認知症の人の理解をしていただけよう対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では現状を聞いていただき、ご家族からの意見や要望、新しい情報などをケア会議で職員に伝えより良いサービスができるように努めている。	会議は、年に3回開催し、市の担当者が毎回参加している。利用者の生活や重度化の課題、ニーズなどを話し合い、出席者と多様な意見を交わしている。事故や災害対策も検討し、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員が月に一度来苑され、意見を聞いたり、職員の思いなどを伝えている。	市とは連携を密に、協力関係が出来ている。新しい介護保険制度の情報は、運営推進会議の場で報告を受けている。郡上「良々カフェ」の運営で連携し、福祉避難場所の要請も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のないケアを目指しているが場合により安全を考え家族の方に相談し納得していただいている。危険と判断した場合は家族に同意を得て行うことにもある	拘束のないケアを徹底し、その弊害についても学んでいる。安全上、止むを得ない場合は、本人負担が少ないよう対応を工夫している。戸外に出たい要望が強い時は、職員が付き添い、見守りながら安全を期している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相手の立場になって接するように職員間で話し合い、勉強会や研修等に参加して防止に努めている		

岐阜県 グループホーム コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用してみえる利用者様はみえるが、制度に関しては分からない職員がいるので学べる機会があれば学んでみたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所されるとき契約時にケアマネが家族の方と話し合い、安心していただけるように、不安なことやわからないことがあれば十分な説明をして理解していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と利用者の方の絆を深めるように、面会に来られた方に様子を伝え、意見、要望を聞き、職員間で話し合いをして、サービス向上に反映している	面会時には、家族と利用者の状況等について、話し合えるよう雰囲気づくりに努めている。苑だよりやホーム通信を定期に送付し、また、個別の手紙を毎月送り、信頼関係を築いている。意見・要望があれば、速やかに対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議で話し合われたことを、職員に伝達してもらいケア会議で改善点など話し合い、サービス向上に努めている。職員間でも意見、提案を出し合う機会を作っている	定例の責任者会議とケア会議があり、内容は議事録に明記している。ケアの気づきやヒヤリハット、誤薬防止など、様々な意見を出し合い、それらをサービスの質の向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にあった労働環境がある。昇格や資格手当など向上心を持って働けるように配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設から勉強会や研修会など、参加できる機会を設け、できるだけ参加できるように支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の行事などの参加するときは全体として参加する機会があるので、その時に職員同士が施設間の話ができることがある。また勉強会など参加して交流に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に応えるように確認して安心して世活に慣れていただくよう本人の思いを聞く。積極的にコミュニケーションをとり関係づくりをとっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の方の考え方や不安なことを聞き話し合いの場を持ち理解をしている。また 毎月個人便りや苑便りなどで苑の生活を伝え安心していただけているように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にケアマネよりご本人、ご家族様との話し合いに必要なサービスを見極め、サービス計画を作成して提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の自主性を尊重して職員と良い関係であるように努め、利用者様の気持ちを理解し人生の先輩として接する		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題等があればご家族に連絡して相談して意見を聞き、ご家族の関係を大切にしていけるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた知人、友達のかたには又来て頂けるようお願いをして関係が途切れないようにしている。また、散歩等地域の知り合いの交流の時間も大切にしている	同法人の事業所それぞれの利用者との交流し、馴染みの関係を築いている。月に1回、苑内に和菓子つきの茶会がある。また、美容院やかかりつけ医、地元のイベント、白鳥踊りも馴染みである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を考えて席を決めている。また、コミュニケーションがなかなかとれない利用者さまのことも考え、レク活動や歌など一緒に楽しんでいただけるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者様はその後の様子を伺いに面会に行き、ご家族の方からは退所されても相談や不安なことなどを聞いて支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との雑談の中で一人ひとりの言動を気かけ、思っていることや希望等を記録しできるだけ沿うことができるように努めている	日常の暮らしのなかで、思いや暮らし方の意向を把握している。また、何気ない言動からも察知し、職員間で共有している。その人の得意なことや趣味を活かした作品づくり、話題づくりにもつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時にご本人やご家族より今までの生活でしてきたことや会話の中で知り、ご本人の希望に添えるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや申し送りなどでご本人の体調、状態を知り一日の生活内容を考えている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるように、毎日の生活の中で今一番大切にしていることをケア会議で話し合い、家族の意見も聞きながら、介護計画をたてている	介護計画は、ケア会議で話し合い、家族の意向も踏まえて作成している。利用者の体調を維持し、自分らしく、笑顔で充実した生活が送れるよう、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの訴えや状態など申し送りなどで記録してその場で対応を考えプランに活かしている 職員で話し合いをして見逃しの内容にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の方の状況やニーズを把握し職員同士で話し合いをして、見逃さないように努めている		

岐阜県 グループホーム コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	苑では遠足、花見、ボランティア等を計画し、利用者様の生活が楽しめるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期往診や緊急時の診察をしていただいている。また、利用者様、ご家族様の要望によっては外部の歯科受診、整形外科も行っている	運営母体の医院が併設しており、全員がかかりつけ医に変更している。他科医への受診は家族が担当が、都合がつかない場合は職員が代行し、24時間の医療と看護の支援体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が日中の変化に気づき看護師に相談して主治医の指示をもらい、処置を行っている。体調の変化があれば、まず看護職員に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリー、医師の紹介状などで利用者の状態を医療機関に伝え情報交換をしている。その際職員も同行して情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族と密に連絡を取り合いながら、納得できるように支援している	重度化や終末期にも、出来るだけホームでの生活が送れるように対応している。疾患によっては、総合病院への移行を選択してもらう場合もあるが、家族の同意の下、ホームで最期を迎えられるように支援をしている。	開設以来、看取りの実績を重ねている。それでも、終末に立ち合えば、何かしらのストレスが生じる。広く経験者や知見者から死生観を学ぶことに期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練はしていないが、事故はあった場合は速やかに看護師、医師に報告して応急処置等の指示をもらい体制を整えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定して、地域の自治会の方や消防署の方の協力で避難訓練を実施している。また、職員が日頃から気を付けて、職員のみでの訓練を実施している	毎年、地域合同の災害訓練を行っている。また、コスモス苑での総合自主訓練もあり、避難を中心に夜間や地震を想定して行っている。地域との協力体制があり、マニュアルを整え、備蓄も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の言動に注意し、一人ひとりの人権を守るように尊重し、言葉かけや対応に気を付けている	職員は、接遇事項や倫理綱領を周知し、実践をしている。人権や尊厳を順守し、言葉かけの時は、利用者と目線を合わせ、笑顔で語りかけ、専門職の自覚を持って対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気付いたことを記録し、対応してる。また、声掛けやかかわりを持ち、希望や思いを話せる雰囲気を作り、自己決定が難しい利用者様には、行動をみながら把握している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを大切に観察日記を参考にしながら、また職員と一緒に行動してその日の体調や精神的不穏、また食事など個々のペースにあった支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれ感をもっといただきように、衣類は本人に決めていただくように声掛けをしている。季節感のあった服装ができるように家族の方に持ってきていただくようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜のすじ取り、お茶の葉の袋詰め、テーブル拭きなど、利用者様のできることを職員と一緒にいき、必要とされる気持ちや生活への意欲を持ってもらえるように支援している	食前には、口腔体操で嚥下力を高め、また、食欲増進効果にもつなげている。家庭的な味付けと、器に彩りを添え、見た目でも満足感が得られるよう工夫している。利用者も準備や片づけなど、思い思いに関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェックして声掛けをし、その方にあった食事を提供している。また問題があれば管理栄養士に相談して水分ゼリーなどをつくり、できるだけ摂取していただけるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。できない方は声掛けをして介助している。夜間は入れ歯を預かり洗浄剤につけて衛生面に気を付け、それぞれに合った口腔ケアをしている		

岐阜県 グループホーム コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレに行っていただくように、一人ひとりにあった排泄ができるようにしている。時間をみて声掛けや誘導をし、排泄チェック表を記録しながら、失敗のないように支援している	排泄パターンに沿ってトイレに誘導している。また、その日の体調にも柔軟に対応している。夜間も、自立度の高い人には声をかけ、支援している。立位の困難な人には、オムツ用品を選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを記録しパターンを把握する。体操、散歩など体を動かすときは必ず水分補給をしている。また水分ゼリーなどをつくり、摂取しやすい工夫もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、入浴以外の日を希望される時は、調整して入浴していただけるようにしている	入浴日は設定しているが、希望があれば曜日を変更し、汚染には、シャワー浴や清拭で対応している。重度者用のリフトも備え、安楽な入浴を支援し、拒む人にはタイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりにあった休息時間を取り入れ、体調の良い日は外気浴をしていただき、昼食後は休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りや服薬チェック表などで、飲み忘れが無いようにしている。利用者の変化に気を付け、一人ひとりの薬の内容や副作用など理解できるように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時に笑って楽しんでいただけるように努力している。また、好きなこと嫌いなことの把握してレクリエーションなど工夫している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調がよく、天気が良い日は積極的に苑庭で過ごしたり散歩したり気分転換を図っている。ときには、ご家族の方に協力を依頼することもある	前庭での散歩と外気浴が日課になっている。毎月、苑の各利用者が集う、「カフェの日」を設けている。重度化により、これまで続いていた遠方への外出は難しくなり、通院や帰宅など、家族の協力を得ている。	

岐阜県 グループホーム コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、事務所で預かっている。 美容院など必要な時は職員と取りに事務所に行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、連絡できるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日玄関やフロアなど掃除をして清潔にしている。また、季節感が味わえるように、苑庭に咲いた花を飾ったり、季節ごとの作品を利用者様と制作したものを飾ったり居心地のよい空間作りをしている	要所には、季節の花や植木鉢がある。壁には手づくりカレンダー、絵画、タペストリーを飾り、七夕飾りなどに、季節感がある。居間や2階談話室の窓越しに、緑濃い山並みが見渡せる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士が近くに座ったり会話をされたり、思い思いに過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって一番居心地の良い場所になるように部屋に写真を飾ったり、ご家族様には馴染みの小物などを持ってきていただいている	表札に一輪の花を添えている。居室には、馴染みの家具や使い慣れたもの、テレビ、椅子、収納ケースなどを持ち込んでいる。誕生日の色紙や記念写真もあり、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど分かるように名札などを張り紙をして利用者様のできることはやっていただくよう支援し、安全に自立した生活をしていただいている		